

## 確かな学力を育成するために 学校に何ができるのか…

浅草中学校では、学力を知識の量のみでとらえるのではなく、学習指導要領に示す基礎的・基本的な内容（知識・技能、意欲、思考力、判断力、表現力）を確実に身に付け、それらを活用・発展させることにより、より平和で豊かな文化・社会を築く力ととらえた。

本校が目指す方向性は、知識の量を増やすとともに、その知識を使って、新たな問題解決に活かす力を育成することである。

そこで浅草中学校では、『自己を正しく表現できる生徒は、学力の高い生徒である』との仮説に基づき、浅草中学校学力向上計画「インプット・アウトプット理論」を打ち立てた。

この仮説に基づき、生徒の学力向上を図るために

- 教員の自己研修に支えられた授業改善（インプットの質、方法の向上）
- 生徒に学習の機会を与え、基礎学力の向上をめざすインプットの量を増やす工夫
- 表現力（アウトプットする力）の育成

という3つの柱からなる実践研究を行ってきた。

これはその3年間の実践をまとめたものである。

ご指導、ご助言を賜りたくお願い申し上げます。  
下記の連絡先までお願いいたします。

### 台東区立浅草中学校

〒111-0051 東京都台東区蔵前1-3-4

TEL. 03(3866)5169

FAX. 03(5687)5888

URL <http://www.taitocity.net/asakusa-jhs/>

Email [asakusa-jhs@taitocity.net](mailto:asakusa-jhs@taitocity.net)

研究の全容、詳しい資料等は本校HPにて公開しています。  
併せてご覧いただければ幸いです。

平成 17・18・19 年度  
文部科学省指定・学力向上拠点形成事業実践研究推進校

### 研究主題

# 基礎学力の向上を中心に 表現力の育成を行い 確かな学力を高める指導の工夫

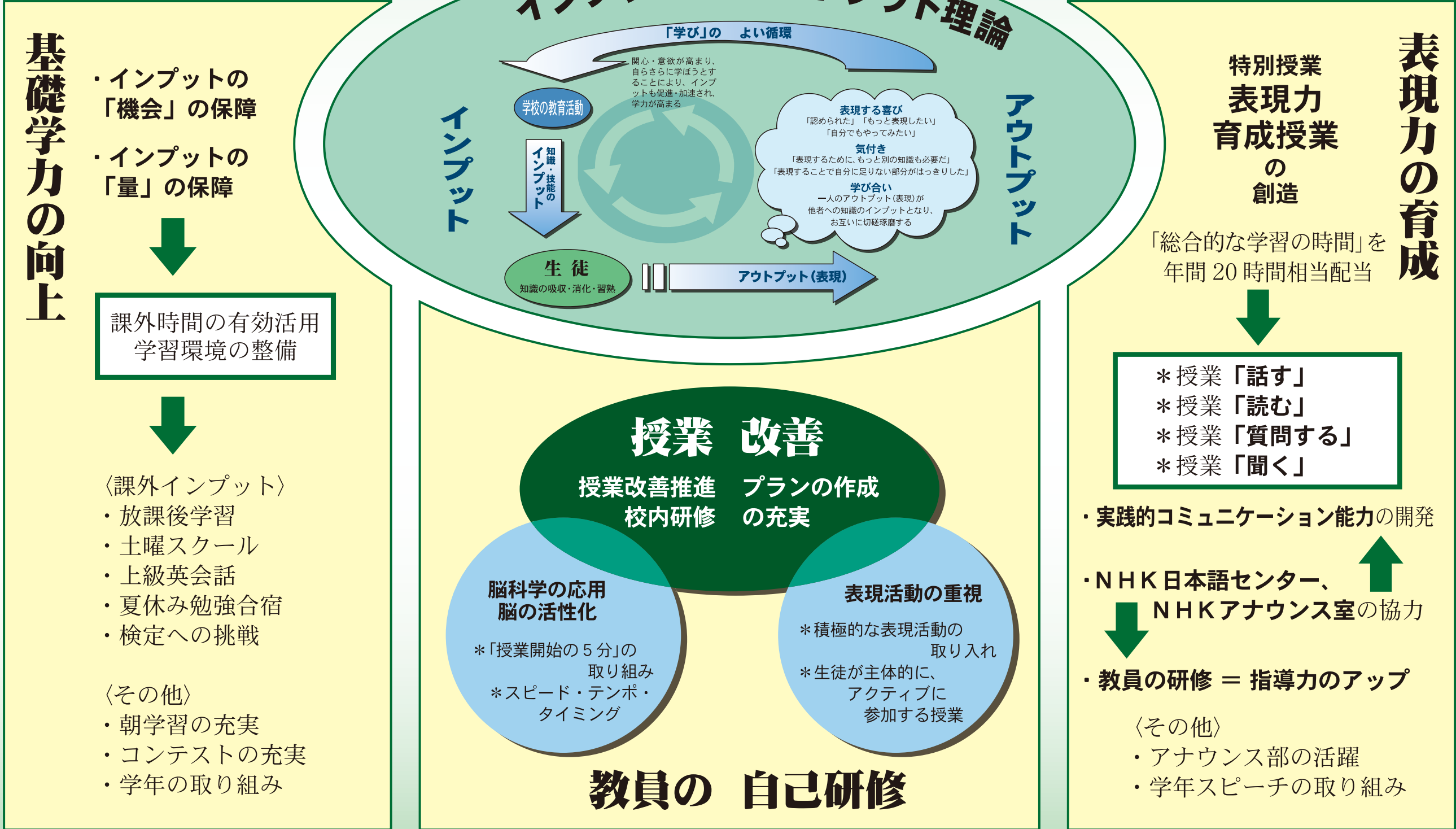


平成 19 年 11 月 16 日（金）

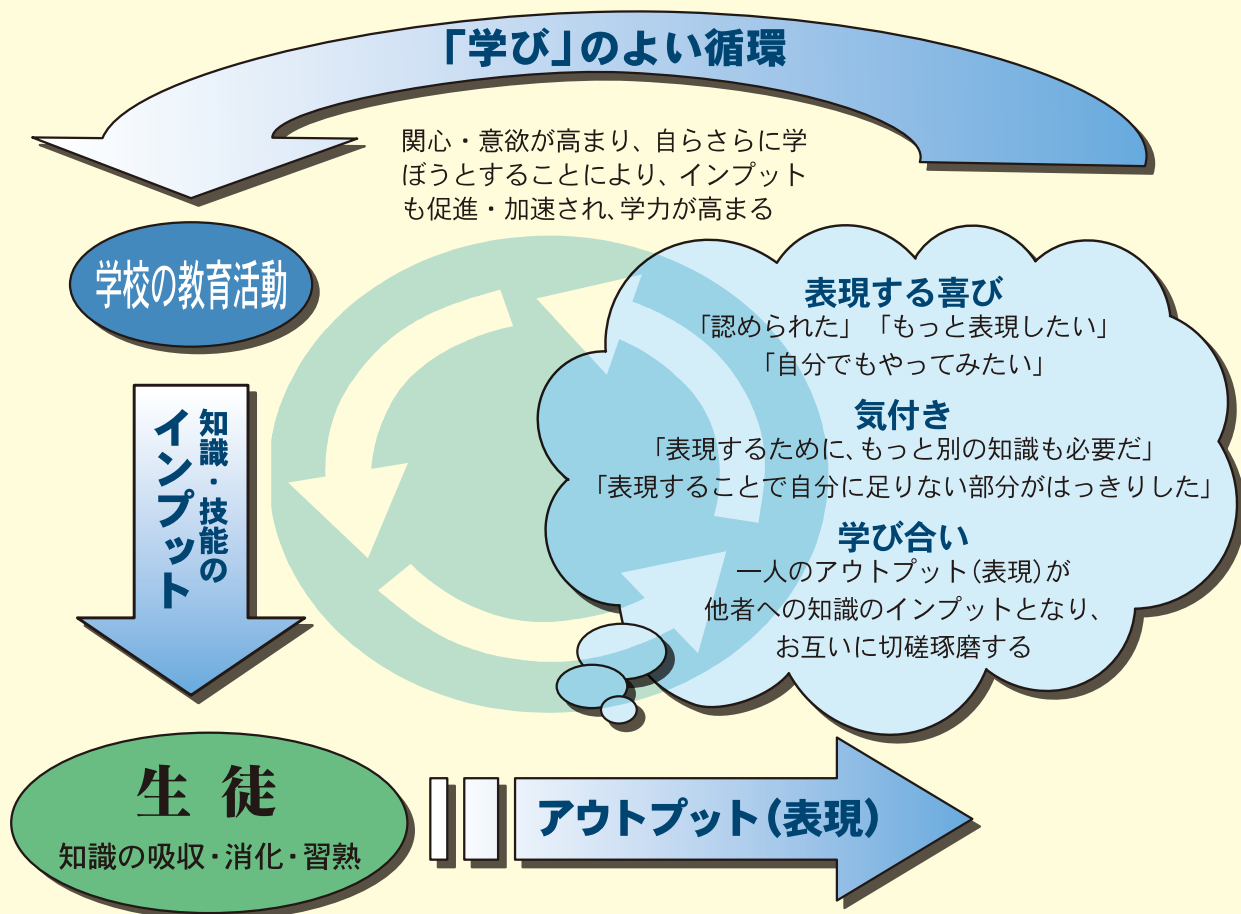
台東区立浅草中学校

# 台東区立浅草中学校 学力向上計画基本構想

研究仮説 『自己を正しく表現できる 生徒は学力の高い生徒である』



# インプット・アウトプット理論



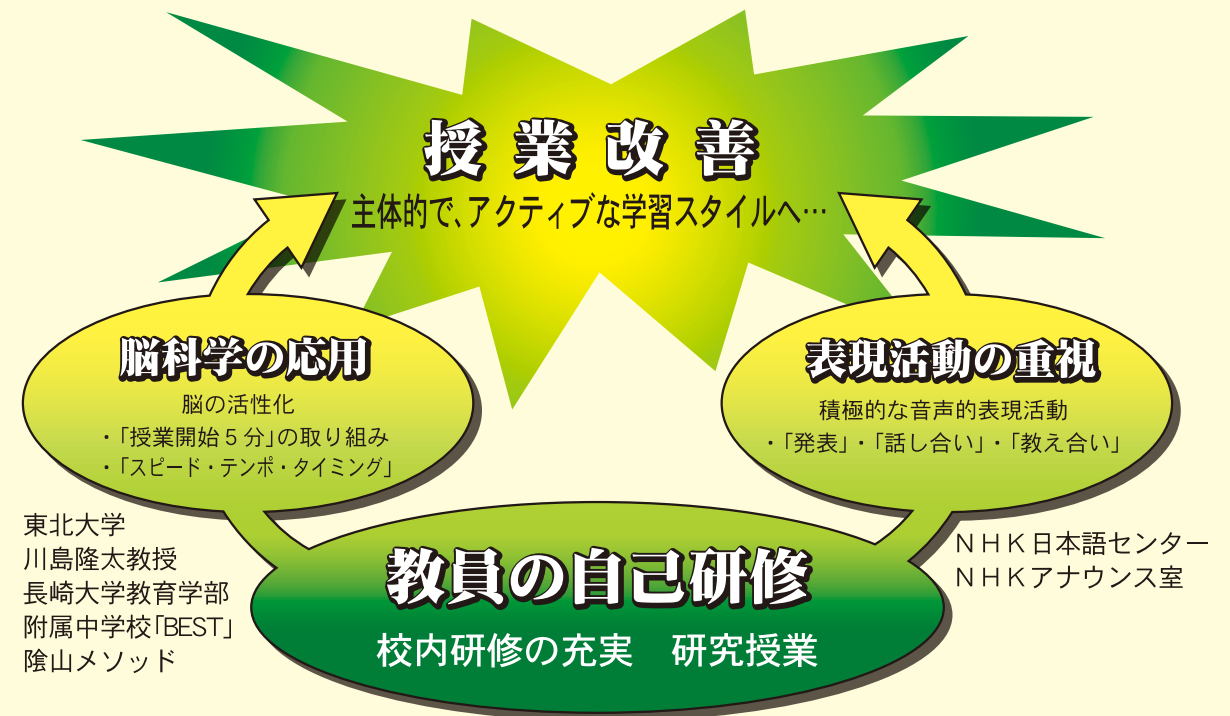
学校教育において「基礎的な知識・技能を習得させること」は極めて重要である。本校では、これを知識・技能の「インプット」と呼ぶことにした。

しかし、学力とはインプットされた知識・技能の量だけではかられるものではない。インプットされた知識・技能を、新たな問題解決にどのように活用させるか、活用する力を付けさせるかが、これからの教育の大切な視点である。我々はこれを「アウトプット(表現)」と呼ぶことにした。

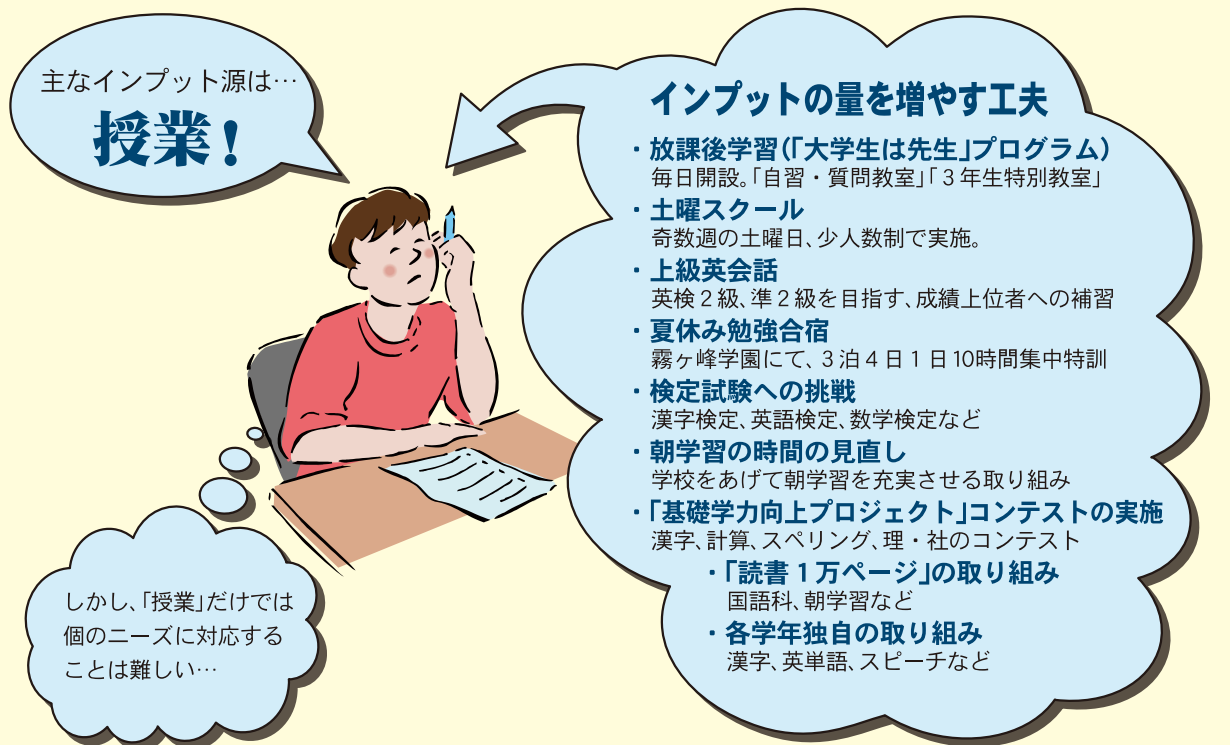
浅草中学校が意図したのは、これまで学校の教育活動の中で重視されてきた「インプット」から、視点を「アウトプット」へ移し、表現活動の場を設定することにより、生徒のより主体的で、アクティブな学習スタイルへの移行を図り、自らさらに学ぼうというモチベーションを高めるという「学び」のよい循環を生み出すことだ。これによって、インプットも促進・加速され、生徒の基礎学力が向上するだろうと考えたのである。

# 教員の自己研修

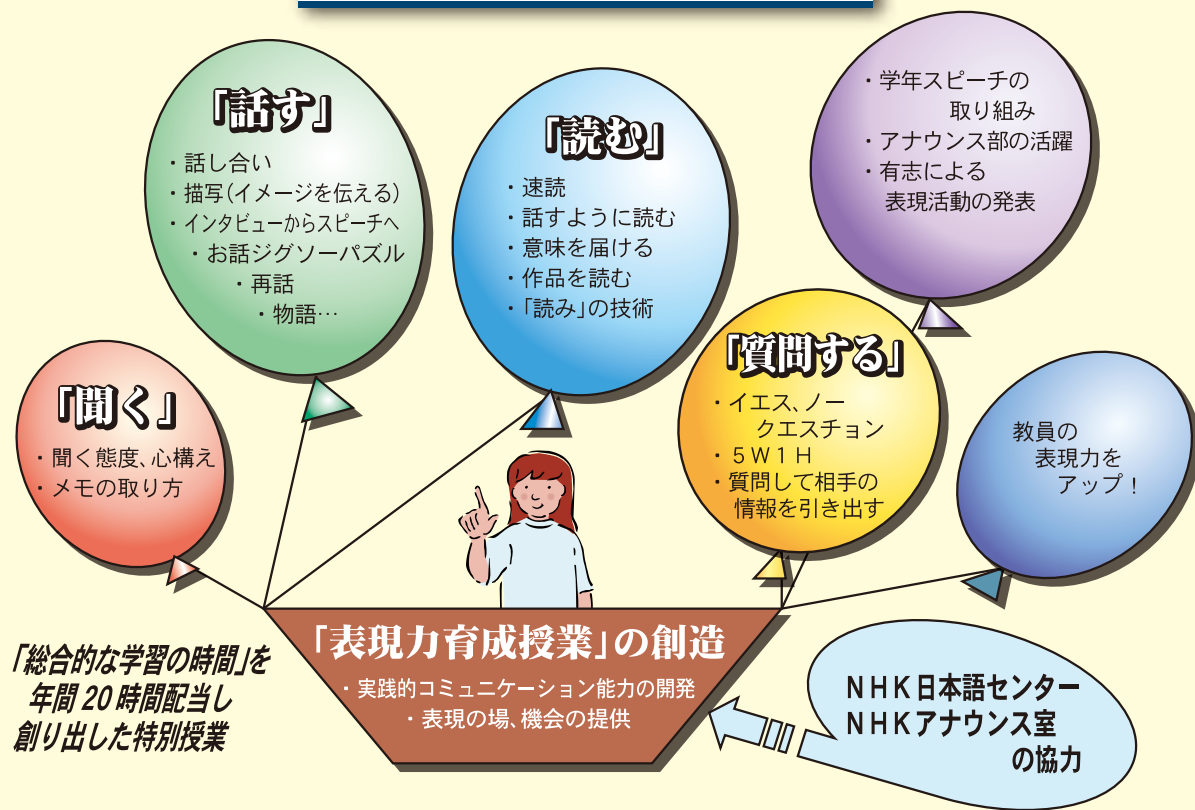
生徒の学力向上を支えるのは…



# 基礎学力の向上



## 表現力の育成



## 生徒の変容

### 1. 台東区習熟度確認調査

17年度(研究のスタートの年)入学生区の平均点に対する校内平均点の1年次から2年次への伸び

| 国語 | 数学 | 英語 | 社会 | 理科 | 3科  | 5科  |
|----|----|----|----|----|-----|-----|
| +2 | +5 | +4 | +9 | +2 | +11 | +19 |

### 2. 18年度東京都「児童・生徒の学力向上を図る調査」

「確かな学力」の伸長を図るための調査(問題解決能力等に関する調査)結果概要(平成19年6月14日教育庁発表)に見る浅草中生(18年度2年生)の力

|       | 問題解決能力等平均 | 観点別結果    |      |         |       |          |
|-------|-----------|----------|------|---------|-------|----------|
|       |           | 問題を発見する力 | 見通す力 | 意志決定する力 | 表現する力 | 適用・応用する力 |
| 都平均   | 73.4      | 91.9     | 83.5 | 61.3    | 66.5  | 71.5     |
| 浅草中学校 | 78.3      | 98.5     | 82.4 | 69.1    | 77.9  | 75.3     |

### 3. 検定受験者数、合格者数の増加

普段の授業態度や、定期考査の取り組みに学習意欲の高まりははっきりと感ぜられるが、各種検定の受験者数やより高い級に挑戦する生徒の増加にそれが現れている。

|      | 漢字検定 |       |      | 英語検定  |      |
|------|------|-------|------|-------|------|
|      | 2級合格 | 準2級合格 | 3級合格 | 準2級合格 | 3級合格 |
| 17年度 | 1    | 4     | 16   | 1     | 14   |
| 18年度 | 2    | 8     | 20   | 3     | 18   |

## 成果と課題

「基礎学力の向上を中心に、表現力の育成を行い、確かな学力を高める指導の工夫」として行ってきた実践研究を通して、明らかになった成果と課題は以下の通りである。

### 【成果】

#### ● 生徒の学習意欲の向上

- 積極的に表現活動を取り入れる、スピード・テンポ・タイミングを意識した展開、授業規律の徹底などにより、授業への参加態度が向上。積極的な発言や活動を評価することで、授業に主体的に参加する生徒が増えた。
- 放課後の学習等、学校全体が学力向上を目指しているという環境の中で、定期考査や各種検定でもより高い目標を目指して努力する生徒が増えた。
- 生徒の意識改善は、落ち着いた学校生活を生みだし、結果的に生活指導上の課題も減少した。

#### ● 生徒の表現力の向上

- 学校生活の中で、生徒が表現活動を常に意識するようになり、個々の表現力が向上した。
- 表現活動を体験する中で、新たな自分の可能性に気付く生徒が増えた。これは生徒の自信につながり、学力の向上を助けている。

#### ● 教員の資質の向上

- 学力向上に向けた授業改善に取り組んだ結果、教員の意識改革が図られた。
- 自らの表現力が向上し、より高い指導力を獲得した。
- 一つの目標を共有することにより、連帯感が生まれ、組織としての学校力が高まった。

### 【課題】

#### ● 質の高い授業を提供するために

- 更なる自己研修、校内研修を通して、教員の資質を高めていく。
- 会議のスリム化、行事の精選を意識的にを行い、教員の教材研究、生徒とかかわる時間を確保する。

#### ● 表現力育成授業の改善

- これまでの実践を整理し、体系化していく。
- 表現力育成授業と一般の教科の授業との結びつきを、より意識的に図る。

#### ● 課外インプットの「質」の向上

- インプットの量を増やす具体的な手だては行った。より効果的な指導を可能にするためのプログラム、カリキュラムを作成する。
- 教員と外部指導員との連携を密にし、指導を充実させる。